

## 平成24年度みんなの審査会(新さかい)審査結果(概要)

事業番号	IV-2	事業名	救急体制の拡充整備事業			
所管	消防	局	警防	部	救急	課

### 【事業内容】

大阪府内全市町村が連携し救急医療に関する相談窓口を設置し、24時間・365日体制で相談の受付を担う「相談員」、救急医療相談に応じるための「看護師」、医学的見地からより高度な救急医療相談に応じるための「医師」による電話相談を実施する。

総コスト(千円)	(平成23年度決算額)	21,503千円	(平成24年度予算額)	22,140千円
----------	-------------	----------	-------------	----------

### 【審査員・検討委員から頂いた審査シート記載内容】

#### 【今後の方向性】

<審査員>						<検討委員(参考意見)>							
今後の方向性	事業の方向性	拡充			3	2	今後の方向性	事業の方向性	拡充			1	1
		現状維持		4	6					2			
		縮小		1						1			
		廃止											
			ゼロ	縮小	現状維持	拡大				ゼロ	縮小	現状維持	拡大
公金投入の方向性(人件費含む)						公金投入の方向性(人件費含む)							

#### 【改善策について】(複数回答あり)

		審査員	検討委員
改善すべき点	事業の実施内容について見直しが必要(サービスそのもののあり方等)	10	3
	事業規模について見直しが必要(サービスの水準や対象者等)	5	1
	サービス受給者の自己負担について見直しが必要	1	0
	市以外からの財源の確保を図るべき	0	0
	担い手のあり方について見直しが必要	1	3
	その他	1	2
(「その他」の具体的記述) ・「救急安心センターおおさか」の運営委員会でのイニシアティブ。 ・安心センターの内容等について、精査が必要であるように思った。 ・救急体制の拡充の目的が的確に伝わっていない気がする。			

#### 【具体的な改善策提案】

- ・運営委員会での議論がよく見えないが、堺市として積極的に関わり、市民の意見も反映されるような運営が必要と感じる。「電話が通じない」ということが、改善できないという事は、センターの存在そのものを問われる事だと考える。ただ、医療相談の場は必要であると思う。
- ・事業目的については今一度明確化するのを感じますが、事業の価値、意義は十分にあると考え、必要に応じて事業の拡大も考慮されるべきと思う。
- ・公費が投入される以上、受託者に任せるのではなく、市が公費の行方等について検討する必要性を感じた。
- ・大阪府全体で関わっているの、事業の方向性と公金の変更しがたいように思う。ただ、話に出ていた広報とりスクヘッジのあり方については検討が必要。
- ・事業目的と手段との関連性の整理がうまくできていないように思われる。
- ・運営協議会への積極的な提言を求める。
- ・事業目的と実際の事業内容が一致していないと思われる。医療に関する相談を受ける窓口として存続させる意味はあるかもしれないが、救急医療体制の一環としては存続させる意味はないと思われる。
- ・#7119に繋がりにくいのは問題。また06-6582-7119という2つの番号選択でなく、一本にまとめてください。利用者の一人としての意見。
- ・「救急センター大阪」について、今回まで知らなかった。もっとアピールするようと思う。シールなどで各家庭に届くといいと思う。

## 平成24年度みんなの審査会(新さかい)審査結果(概要)

事業番号	IV-2	事業名	救急体制の拡充整備事業			
所管	消防	局	警防	部	救急	課

## 【審査員・検討委員から頂いた審査シート記載内容】

## 【具体的な改善策提案】

- ・安心センターおおさかについてPR不足なので、119番をもっと充実させてほしい。
- ・市民に周知徹底を図る。今までの方法ではだめです。・出勤コストは出す事(案分で良い)。
- ・名前は救急を外す方が良いと思う。
- ・救急時は近くの医者と相談して、判断する事が多い。#7119は知っていますが対応せず、まず119をかける。
- ・#7119の内容等多くの市民に知ってもらう為もっとPRの方法などの検討を要望。
- ・利用者にとって119以外で相談がある窓口があることは有り難い。
- ・部長さんが言っていたように「こんな事で呼んで良いか？」の人にとっての意義は大きい。一方でリスクの方の対策の必要性を感じましたので、検討をお願いしたい。
- ・医療に対する相談窓口的なものは必要だと思う。しかし、救急に関しては窓口が一つでないと、戸惑い、判断を誤ってしまう可能性があるのでは。
- ・周知については、小学校などで消防車は来てもらっている色々な説明があるが、救急車はないのもっと子どもに救急車に対する知識をつけてもらう(どういう時に呼ぶか)方がいいのではないかなと思う。
- ・PRの方法をもっと伝えるように周知してもらうように工夫がいる。山口委員がおっしゃっていたように、救急コールセンターから安心コールセンターに名前を変える。
- ・広報の拡充。自治会回覧にて廻す。
- ・山口委員と同じく「救急安心センター」の救急をとってほしい。
- ・センターのPR拡大の為、学校で配るだけではなく、親が集まる日(例えば参観日等)に出向いて説明した方がいいと思う。(読んでくださいだけでは、PRにならない)
- ・救急車を悪用するものが多く、その対策は大変だと思いますがなるべく119番する方向で指導して欲しい。
- ・救急と安心医療を分離すべきです。安心相談は必要と考えます。また、センター利用が増大していった場合、どうするのか。救急車と同じように対応していくのか。
- ・老人利用が少ないという事なので、老人会などのそういった窓口を利用して広報を広めて欲しい。
- ・ネーミングの変更を指摘されていたが、一考してもいいと思う。
- ・電話だけの応答では病状をはっきり把握するのは無理だと思う。救急車の出動回数は、他の方法で減らす方が良くと思うし、救急車だけ来て、病院の行き先が決まらず受け皿がなく時間がかかる場合もある。

## 【廃止の理由】(複数回答あり)

審査員

検討委員

行政で行う役割は終了している(事業開始当初の目的は既に達成されている)

0

0

時代の変化に伴う課題やニーズ(需要)を反映していない

0

0

事業の目的を達成するには、別の手段を考える方がよい

0

0

他の事業との結合・再編を検討すべき

0

0

サービス受給者の自助努力に任せるべき(税金を投入する必要はない)

0

0

効果がない(低い)

0

0

その他

0

0

(「その他」の具体的記述)

## 【その他意見等】(自由記入欄に記載された意見)

- ・堺市としての訴訟リスクや架電状況のより詳しい情報収集、その公開が必要であろう。
- ・「救急センター」は必要ないというより、「相談」センターが欲しい。例えば、この場合は、何科に行ったらいいのか、医薬品などの相談が気軽にできる窓口が欲しい。
- ・責任問題での解答が出来ていない(金銭面)のでいろんな角度から、再度事業形態を考えてほしい。